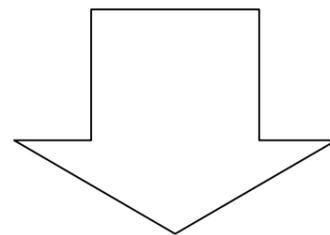


審議会の中間まとめが示す方向性は、生活や事業活動の様式を少しずつ改善していくシナリオ2です。ただし、将来の選択肢としては、現状の生活様式の中でのリサイクル徹底型（シナリオ1） なかば強制的に生活様式を改善する市民・事業者の自己責任に基づくリデュース（発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル型（シナリオ3）も考えられます。



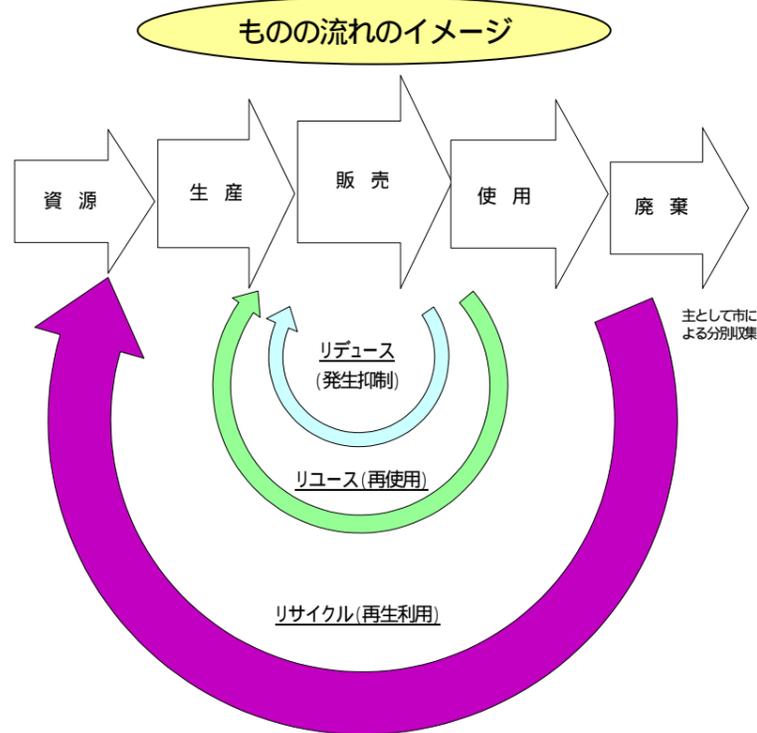
それぞれのシナリオについて、次ページ以降にイメージ図を示しておりますので、そちらもご覧下さい。

2015年の時点での京都市の将来像として、あなたはどのシナリオが望ましいとお考えになるでしょうか。別添のアンケート用紙にシナリオ番号をお書き下さい。

## シナリオ1

### 行政主導のリサイクル徹底型

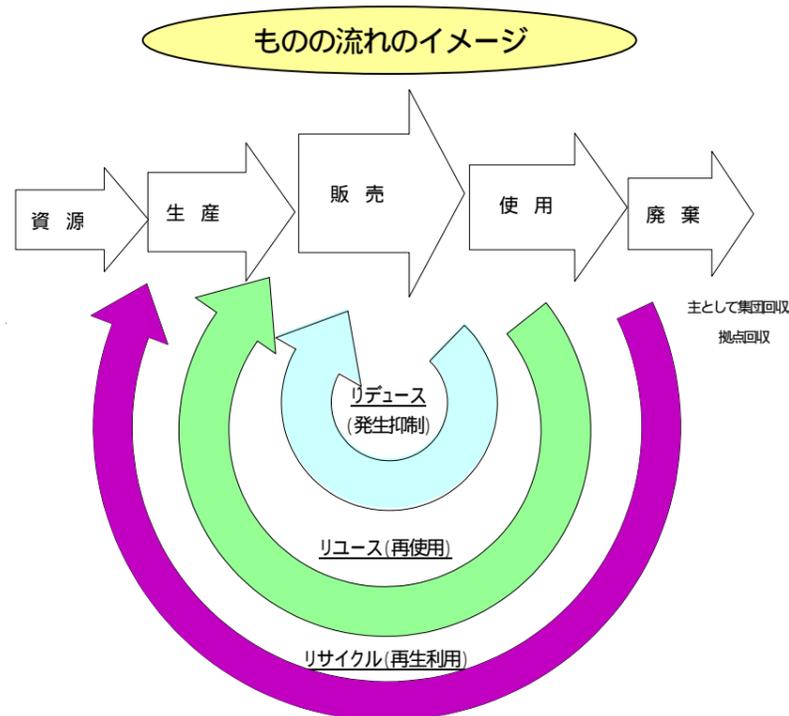
- ・市民・事業者はこれまでどおりの大量生産・大量消費を継続
- ・行政主導で分別収集・リサイクルを徹底
- ・残ったごみは行政が従来型の焼却により対応
- ・ごみ発生量は増加（ごみ処理費、環境負荷も増加）
- ・ごみ処理費は、税金により負担



## シナリオ2

### 市民と事業者の連携と行政支援に基づく リデュース（発生抑制） リユース（再使用） リサイクル型（3R）

- ・市民・事業者が消費を徐々に抑えつつ、連携して3Rを実施
- ・行政がこれを調整・支援（行政による分別収集も一部実施）
- ・行政による処理は徐々に非焼却へ。残りは焼却により適正処理
- ・ごみ発生量は徐々に減少（ごみ処理費、環境負荷も徐々に減少）
- ・ごみ処理費は、市民・事業者の直接負担と税金により負担



## シナリオ3

### 市民・事業者の自己責任に基づく リデュース（発生抑制） リユース（再使用） リサイクル型（3R）

- ・市民・事業者が消費を極力抑え、自己責任として3Rを実施
- ・行政がこれを調整し、普及啓発を強化
- ・残ったごみの処理は、行政から民間事業へ移行
- ・ごみ発生量は大きく減少（ごみ処理費、環境負荷も大きく減少）
- ・ごみ処理費は、市民・事業者による直接負担

